

# R6.7.4 第1回市民ワークショップ<つるおか未来カフェ> (まとめ)

## 目的

令和6年3月に策定した総合計画後期基本計画を市民へ普及・啓発を図るとともに、市民との協働により推進し、今後のまちづくりや一つひとつの取組に市民の意見を反映するため、市民ワークショップを開催するもの

今回は次代を担う高校生の意見やアイデア等を聞くために、山形県立致道館高等学校の地域活性化ゼミに所属する生徒を対象に実施

## 開催概要

日時：令和6年7月4日（木）15時50分から17時15分

場所：山形県立致道館高等学校

参加者：山形県立致道館高等学校の地域活性化ゼミに所属する生徒24名（2年生）

全体ファシリテーター：山形大学名誉教授 平 智先生（鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会委員長）

内容：致道館高校の地域活性化ゼミ生が6つのグループに分かれ、総合計画後期基本計画の5つの加速化アクションに関連したテーマについて、「まちづくりのために何が必要か」の視点から意見を出し合い、グループ討論・グループ発表を行う

その他：班ごとのファシリテーターとして、東北公益文科大学の「地域共創コーディネーター養成講座」を修了した市職員を配置



# R6.7.4 第1回市民ワークショップ<つるおか未来カフェ>(まとめ)

## 意見概要

### タイトル：『交流人口の拡大』 ×2グループ (加速化アクション4 交流人口の創出・拡大)

- ・空き家をレンタルハウスやカフェにするなどし、利用価値をつくり、街の活気を高める
- ・鶴岡が舞台の創作物（アニメなど）やSNSを活用し魅力を外部に発信することにより、訪れるきっかけを作る
- ・市内・市外両方の人を楽しめる海や山などの自然を活用した体験を実施する
- ・学校や飲食店などが、和食やアニメを活用し外国人を呼び込み、外国人が親しみやすく過ごしやすい鶴岡市を目指す
- ・加茂水族館などの既存の観光資源の拡大
- ・観光地が一つの地域に集中しないように、鶴岡市全体が魅力ある観光地になるような街づくりを行う
- ・酒田市のようにメインの通りを整備したり、銀座商店街を活性化したりなどし、地域を活性化させる

### タイトル：『中心街の継続的な活性化』 (加速化アクション4 交流人口の創出・拡大)

- ・イベントや観光客を増加させ、県外からの観光客を増やす
- ・鶴岡が舞台のオリジナルアニメをつくる（アニメは地元の雰囲気や景観を壊さずPRできる）
- ・SNSを利用し、鶴岡の良さを幅広い世代にPRする
- ・同じ地域の人同士や幅広い世代の人々が関われるようなイベントを行ったり、気軽に集まって話せたりするような施設をつくる
- ・魅力が視覚から入れるように鶴岡市の景色を生かして外観を整える
- ・閉店した店、空き家、空き地を活用し、新しくお店を出したい人を集めてお店を出してもらい、人が多く来るような商店街にする
- ・移住者から、鶴岡に移住して良かったことや移住前後の支援をPRしてもらい、鶴岡に移住したいと思えるようにする

### タイトル：『ウォーキングで健康増進と防災意識を高めよう』 (加速化アクション2 SDGs未来都市の実現)

- ・ハザードマップなど、現在ある防災に関する情報を知らない人が多いため、人々に情報を提供し、知ってもらうことが重要
- ・避難時の助け合いなど、地域の人々同士の交流が大切
- ・海の周辺を歩き、きれいではない海の現状を知ってもらい、汚さないようにしてもらい
- ・老若男女の運動不足が問題になっているため、ウォーキングイベントを開催したりするなど、運動習慣をつけることが必要である

### タイトル：『若者の食卓に郷土料理を登場させ隊』 (加速化アクション3 産業振興と人材育成)

- ・若者に郷土料理を知ってもらうためにSNSなどを通して、郷土料理を食べることの利点などを発信し、忘れられないようにする
- ・農水産物の現状を学び、消費者と生産者が連携し、今の鶴岡（庄内）の農水産業に合わせて、郷土料理をアレンジしたりレシピを作る
- ・スーパーや飲食店などで、もっと気軽に買ったり食べたりできるようにし、郷土料理へのハードルを下げる必要がある
- ・郷土料理を苦手な人やアレルギーがある人でも食べられて、かつ若者の好みに対応できるものにしていくことが大切

### タイトル：『フルーツで地域を活性化』 (加速化アクション3 産業振興と人材育成)

- ・後継者不足を解消するためにデジタル化を導入したり安定した収入を得られるようにしたりして、人材を確保する
- ・フェアやイベントなど、若者が興味関心を持つものを利用して若者の果物の消費、関心度UPを促す
- ・若い世代や市外の人たちに向けたPRを行い、フルーツ農家などの活動を知ってもらい興味を持ってもらうことで、将来的な人材の確保へつなげる
- ・幅広い分野の人々と意見交換を行い、協力して問題解決を目指す
- ・フルーツにかかる予算が少ないので、クラウドファンディングなどで資金を集める

### 【意見のまとめ】

- ・SNSなど、若者向けのツールを活用し、様々な情報を発信することにより、市内外の人から鶴岡のことを知ってもらうことが重要
- ・豊かな自然や食文化など、鶴岡ならではの資源を活用し、若者の定住促進や観光客などを呼び込んでいくことが重要